

発行者

北海道スポーツ少年団本部長 霜觸 寛
 (Hokkaido Junior Sports Clubs Association)

〒062-8572 札幌市豊平区豊平5条11丁目1-1
 北海道立総合体育センター内

TEL 011-820-1706 / FAX 011-833-0705
 E-mail hokkaido@japan-sports.or.jp

MOEKO NAGAOKA

長岡 萌映子 さん

(ながおか・もえこ)

バスケットボール女子日本代表候補
 (現：富士通レッドウェーブ所属)

アスリートの原点

1993年12月29日、浦河町生まれ。札幌宮の丘中でU-15日本代表。札幌山の手高に進み、2年で高校総体、国体、ウィンターカップの3冠、3年では主将、日本代表として2011年アジア選手権に出場。卒業後は富士通入り。180cm、69kg。大型のオールラウンドプレイヤーで、ウィンターカップでは1試合最多タイ51得点を挙げた。

札幌手稲宮丘(みやのおか)少年団でミニバスケットボールを始めたのは小学2年から、最初から秀でていたわけではない。初めてすくイヤになった。「練習は厳しいし、怒られてばかり・・・。」一時はやめた。友達や先生が「またやろう」と声をかけた。小学4年ごろからまた熱心に取り組むようになった。当時を知る北出良知監督(37=札幌稲積小教)は、「素晴らしい選手に成長しました。でも、小学校のころは普通の女の子でしたよ」と振り返る。

普通の女の子がどうすれば日本を代表する選手に成長したのか、長岡自身はこう考えている。「楽しむこと、うまくなろうという気持ちを持ち続ける」。両親の影響で小さいころからバレーボールや水泳をやり、外で遊ぶことが大好き、一輪車も得意だった。1つの競技に集中するのは、後からでも十分。「自分が楽しいな、面白いと感じたことを思い切りやってみるのいい。上手な人の真似をして、できるようになるとうれしい」。

小学5~6年生生では激しく、厳しい練習にもついていけるようになり、次第に伸び始めた。「シュートタッチが良くなり、ドリブルも力強くなりました」と北出監督。一流選手への土台づくりは、このころに始まっている。中学から高校とトップアスリートへの階段を駆け上がったが、一貫しているのは楽しむ心、向上心だ。

北出監督は「子どもたちに夢を与える存在になった。ルーズボールも一生懸命に追いかける。お手本になりました」とまだまだ、伸び続ける長岡さんを見守っている。



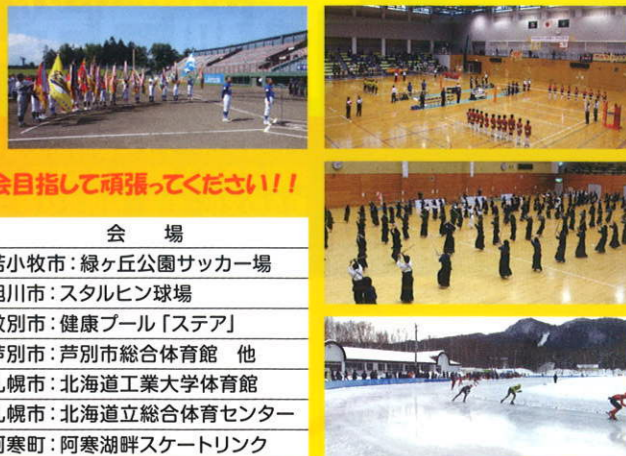
写真提供：日本バスケットボール協会

平成24年度事業計画

平成24年度
 道競技別交流大会の予定

全国大会目指して頑張ってください!!

大会名	期日	会場
第36回 全日本少年サッカー大会北海道大会	6/30~7/1	苫小牧市：緑ヶ丘公園サッカー場
第27回 北海道スポーツ少年団軟式野球交流大会	7/26~29	旭川市：スタルヒン球場
第9回 北海道スポーツ少年団水泳交流大会	9/23	紋別市：健康プール「ステア」
第10回 北海道スポーツ少年団バレーボール交流大会	11/23~25	芦別市：芦別市総合体育館 他
第27回 北海道スポーツ少年団剣道交流大会	11/24~25	札幌市：北海道工業大学体育館
第27回 北海道スポーツ少年団卓球交流大会	1/19	札幌市：北海道立総合体育センター
第35回 北海道スポーツ少年団スピードスケート競技大会	1/19~20	阿寒町：阿寒湖畔スケートリンク



平成24年度
 日本スポーツ少年団ジュニアリーダースクール

- 【内容】スポーツ活動やレクリエーションを通じて、地域や市町村で活動しているスポーツ少年団リーダーの資質向上を図ることを目的に、毎年道内4会場で開催されています。
- 【対象者】スポーツ少年団登録団員で、団活動歴2年以上の小学校5年生から中学校3年生までの団員で、下記参加条件全てに該当し、市町村スポーツ少年団本部長の推薦するもの。
- (1) 単位団又は市町村スポーツ少年団でリーダーとして活動している者で、且つ今後活躍が期待される者
 - (2) 管内・市町村レベルのリーダー研修会等を修了している者
 - (3) 運動適正テスト3級程度の体力を有する者
 - (4) スポーツ安全保険等の傷害保険に加入済の者

開催管内	期日	会場
道南(胆振)	H25/2/9~11	登別市：登別市ネイチャーセンター「ふおれすと鉱山」
道央(石狩)	H24/11/23~25	砂川市：北海道立砂川少年自然の家「ネイバル砂川」
道北(上川)	H24/11/23~25	士別市：士別市つくも青少年の家
道東(網走)	H25/1/12~14	北見市：北海道立常呂少年自然の家「ネイバルクッピーところ」

平成24年度
 北海道スポーツ少年団指導者・母集団研修会

- 【内容】地域で単位団の育成・指導にあたっての指導者並びに、団員のスポーツ活動を援助している母集団関係者が集まり、資質向上と指導者・母集団互いの理解を深めるために開催されています。
- 【対象者】
- (1) 日本スポーツ少年団登録指導者
 - (2) 日本スポーツ少年団認定員
 - (3) 育成母集団関係者
 - (4) その他スポーツ少年団本部長の推薦する者

開催管内	期日	会場
道南(日高)	H24/10~11月	日高町：会場未定
道央(後志)	H24/8~10月	共和町：会場未定
道北(宗谷)	H24/12月上旬	稚内市：稚内全日空ホテル
道東(根室)	H24/11/25	中標津町：中標津体育館

指導者紹介

森野(楠瀬)志保さん

(リレハンメル・長野冬季五輪 スピードスケート女子日本代表)

第1回目は、「リレハンメル・長野冬季五輪 スピードスケート女子日本代表」の森野(楠瀬)志保さんです。現在は別海町教育委員会に勤めながら、別海スケート少年団白鳥スポーツ少年団でスケートの指導にあっています。

Q. スケートを始めたきっかけは?
 A. 中学の体育教師でスケート部の顧問だった父に、3歳くらいからリンクサイドに連れて行かれていたのがきっかけです。

Q. スポーツ少年団で学んだことは?
 A. スケートの他に、小4からバレーボール少年団にも入っていました。団体種目であるバレーボールでは、レギュラー選手・補欠選手・先生・保護者など、チームに携わる全員の気持ちが一つになった時にチームはぐっと強くなることや、補欠を含むメンバー全員がチームにとって大切な存在であることを学びました。スケートでは、自分が頑張れば頑張っただけタイムが縮まる喜びがありました。バレーボールもスケートも練習が辛い時もありましたが、みんな一緒に乗り越えられた事も多かったため、仲間の大切さを改めて体感しました。

Q. スポーツ少年団在籍中に、指導者からかけられた言葉で今も印象に残っている言葉は?
 A. 「お前は天才じゃない。だから人一倍努力してようやく人と戦えるんだ」(スケートの指導者だった父からの言葉)

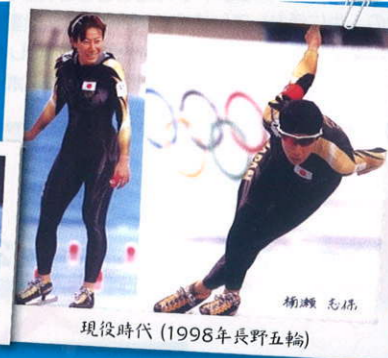
Q. スポーツ少年団の指導者になったきっかけは?
 A. 高校、大学、社会人で競技をやっていた、たまに地元に戻ってスケート少年団へ顔を出すのが好きで、子どもたちの無邪気な笑顔やキラキラした目がいつも私に元気を分けてくれました。長野五輪後に第一線を退き、翌年に帰郷。「選手あがりの今、子どもたちに伝えられることがあるはず」と思い指導者として活動を始めました。

Q. 指導する上で気をつけていることは?
 A. ①ケガをさせないこと。
 ②自分の頭の中で動きをイメージして、自分で動いてみながら言葉を選んでアドバイスをする。

別海スケート少年団
 白鳥スポーツ少年団 指導者



現在の指導風景(一番左)



現役時代(1998年長野五輪)

- ③ 担当している子ども全員に1日1回必ず声をかけること。
- ④ 子どもたちの呼吸が聞こえる場所にいること。
- ⑤ 小学、中学がゴールではない。教え過ぎず、考える力が育つようサポートしたい。

Q. スポーツ少年団とは森野さんにとってどんなもの?
 A. すっつと育ててもらった場所。子どもの時はもちろん、現在も指導者として、そして母親として育てていただいております。

Q. 現在の夢は?
 A. 小さな夢ですが、我が子の少年団活動のきっかけをして過ごしたいです。長男(小5)、長女(小3)、次男(小1)の3人が夏は水泳、冬はスケートをし、その他に長男、次男はサッカーを、長女はバスケットボールをやっています。その全ての練習も大会もついて歩きたいです。

Q. 北海道スポーツ少年団の子どもたちに一言!
 A. ①「今日はどんな練習をするのかなあ〜。どれだけ上手にできるかなあ。」ってワクワクしながら毎日練習に通ってください。
 ②一生懸命に教えてくれる先生や、皆さんのことを一番応援してくれているお父さんお母さんに感謝の気持ちを持ちましょう。素直な気持ちで話を聞ける子は、すーっと心と頭に言葉が入ってくるから上達するのが早いですよ。
 ③最後に「仲間を大切に!」「用具を大事に!」

Q. 指導者、保護者の皆さんへ一言!
 A. 子どもたちは、個々のペースで確実に成長し続けます。卒団後も「たっだいま!」って帰ってきてくれたら「おめでとう!」って迎えてあげられるような温かな場所を、これからも子どもたち主役に守っていきましょう。

第41回 北海道スポーツ少年大会

(H23.9.23~25)

今大会の少年大会は砂川市の北海道立砂川少年自然の家「ネイパル砂川」で開催されました。
天候にも恵まれ、ネイパル砂川にて炊事活動や登山、隣町の滝川市B&G海洋センターではカヌー体験も行い、学校では学べない貴重な体験をしました。
その様子をご報告いたします。

<日程表>

- <1日目> 13:30~ 開会式
14:00~ 全体交流
(レクリエーション・プレゼント交換)
15:00~ 野外炊飯 (カレーライス作り)
19:00~ 全体活動
(スポーツ・レクリエーション交流)
20:00~ 入浴・自由交歓・班別ミーティング
22:30~ 消灯・就寝
- <2日目> 6:30~ 早朝活動・朝の集い
7:30~ 清掃・朝食・活動準備
8:30~ 講義「スポーツ少年団とは」
講師/富樫 和弘 氏
9:30~ 野外活動 (登山)
12:00~ 昼食
13:00~ 講義「リーダーとは」
講師/富樫 和弘 氏
14:00~ 野外活動 (カヌー体験)
17:00~ 野外炊飯 (バーベキュー)
18:30~ 野外活動 (キャンプファイヤー)
20:00~ 入浴・自由交歓・班別ミーティング
22:30~ 消灯・就寝
- <3日目> 6:30~ 早朝活動・朝の集い
7:30~ 清掃・帰宅準備
8:30~ 朝食
9:30~ まとめ (全体協議)
10:30~ 閉会式



1 はじめは緊張していた団員たちも少しずつ友達ができていきました。



2 ヒキリ板を使っっての火おこし体験。



3 自分たちで作ったカレーライスの味は格別でした。



4 期間中の食事などは全て、セイコーマートさんから提供していただきました。

北海道スポーツ少年大会とは...

北海道内の団員約90名が一堂に集まり、
スポーツ少年団活動と集団生活を通じて

心身の鍛練や
リーダーとしての資質の向上を
図ることを目的に開催しています。



5 講義ではみんな真剣な眼差しです。



6 石山展望台へ向けて登山開始!



7 石山展望台に着くと空と平野の雄大な景色が広がっていました。



8 まっすぐ漕ぐのが大変だったカヌー体験。



9 ネイパル砂川にて全員で記念撮影。



10 最後にはキャンプファイヤーを囲んで大きな友情の輪を作りました。

第42回北海道スポーツ少年大会

【期 日】 H24.9.15~17 (2泊3日)
【会 場】 北海道立砂川少年自然の家「ネイパル砂川」(砂川市)
【参 加 料】 1,000円 (宿泊費、往復の交通費は北海道スポーツ少年団が補助します。)
【申込方法】 所属している管内スポーツ少年団連絡協議会までお申し込みください
詳細については、管内スポーツ少年団連絡協議会までお問い合わせください。
平成24年度の北海道スポーツ少年大会も砂川市で開催されます。
普段会えない道内各地の団員たちと友達になって、忘れられない思い出を作りに行こう!
皆さまの参加をお待ちしております。

北海道スポーツ少年団リーダー会紹介

みなさんは道競技別交流大会や北海道スポーツ少年大会、ジュニアリーダーズスクールなどに参加した際に、楽しいレクリエーションや運営補助をしてくれたピンクのポロシャツを着たお兄さん、お姉さんを見たことがありますか?北海道スポーツ少年団リーダー会と呼ばれるメンバーです。
みなさんと同じように今も少年団に在籍し、将来、少年団の指導者になるために勉強しています。
各種事業の運営補助のご依頼やリーダー会入会に興味がありましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。
私たちリーダー会は、北海道スポーツ少年団活動を支援していきます。

☆リーダー会への運営補助などの依頼、入会の問い合わせ先☆

〒062-8572 公益財団法人 北海道体育協会生涯スポーツ課
札幌市豊平区豊平5条 11 丁目 1-1 TEL 011-820-1706 リーダー会のアドレス <http://www.hokkaido-leaders-club.com/>





日独スポーツ少年団同時交流

日独スポーツ少年団同時交流は、昭和49年(1974年)から行われている青少年の国際交流事業です。両国の夏休み期間中の3週間、スポーツ活動を中心とする民泊を取り入れたグループパートナー方式で、相互の文化・生活・習慣を体験する国際交流です。今回、北海道からは指導者1名、団員6名が派遣され、受入では釧路管内にて指導者1名、団員4名を受け入れました。

派遣

H23.7.20 ~ 8.11
●指導者1名 ●団員6名

【派遣者感想文1】
この気持ちをどうまとめたいか正直難しいです。それくらいドイツで過ごした日々は素晴らしく、伝えたいことがたくさんあります。日数で言えば23日間ですが、その中にとっても濃い体験があり、1日1日が充実していました。

英語が苦手な私は、コミュニケーションがなによりも心配でしたが、ホストファミリーのみなさんをはじめとしたドイツのみなさんは温かく迎え入れてくれ、私の片言の英語・ドイツ語・身振り手振りを理解してくれようとしてくれました。相手に伝わったり自分が理解できると嬉しく、すごく楽しかったです。そしてたくさんの活動をする中で、国が違っても言葉が通じなくても、みんな楽しんでくれることのできるスポーツの素晴らしさを改めて実感することもできました。

23日間という短いドイツでの滞在の中でたくさんの出会いがあり、人の温かさ、優しさ、そして異文化や歴史に触れることができ、感動と感謝の気持ちでいっぱいです。ドイツでの思い出は生涯忘れることのないかけがいのない宝物となりました。今回の日独同時交流に参加できたことを幸せに思います。この経験や学んだことをこれからのリーダー活動、そして自分の人生に活かしていきます。このような貴重な経験ができたのはたくさんの支えがあったからです。心から感謝いたします。 Danke Schon!

門別スポーツリーダーズクラブスポーツ少年団 堂本 香澄



【派遣者感想文2】

私にとってこの日独同時交流は忘れられない思い出となりました。また同時に、とても良い経験になりました。私は、日独同時交流に参加することを目標の1つとして少年団で活動してきましたが、今までの活動が無駄ではなかったと思うくらいとても素晴らしい交流でした。

このように思い出に残る素晴らしい交流になったのは、関わってくださった人たちのおかげです。指導者の先生をはじめ、日本とドイツそれぞれでこの交流に携わってくれたみなさんの協力やサポートがなければ、こういう感想は生まれなかったと思うし、こんな幸せな気持ちにはなれなかったと思います。また、楽しただけではなく、他にやることのできないくらいとても良い経験を積むことができました。私は感謝の気持ちを忘れず、これからも活動していきたいと思っています。

最初に書いたとおり、私にとってこの日独同時交流は少年団活動の1つの目標でした。しかし、目標を達成したからといってそこで活動をやるのではなく、また新たな目標を目指し、さらに少年団活動を頑張りたいと思います。

門別スポーツリーダーズクラブスポーツ少年団 小田 桜子

受入

H23.7.24 ~ 8.9
●指導者1名 ●団員4名

【受入民泊家庭感想文】

この度、ドイツ人の方のホームステイを担当することになり、習慣が違う事や言葉が通じない事を考えると不安を感じていました。滞在中、話すことなく過ぎてしまうのではないかと感じていたのですが、実際に会ってみると、若干ですが日本語を話すことができたため安心もできた部分もあり、とてもフレンドリーに接することができました。コミュニケーションを交わす時は言葉に加え、身振り手振りを交えながら行いました。普段の生活では、自分の言葉で話せば相手に意思が通じますが、今回の機会を通じ、気持ちを伝える難しさや大切さを感じました。今回の交流で外国人という区切りが少しオープンになった気がします。

この事業が始まるまで、国際交流というものを難しく考えていたようにした。

外国人という前提で見れば、お互いに構えてしまいがちですが、同じ人間として接すれば、気持ちが通じ合えることを身をもって感じる事ができました。民泊の受入は、このような機会がなければ経験できないことだと思います。とても良い経験になりました。本当にありがとうございました。

白糖町受入民泊家庭より

【日独同時交流に参加した団員のその後】

川村 智也 (平成23年度北海道スポーツ少年団リーダー会会長) さん(22歳) ■現所属: サフォークランド土別サッカースポーツ少年団

Q.参加したのは第何回目?
A.第34回日独同時交流(日本派遣団:北海道グループ)
Q.ドイツのリーダーはどうだった?
A.自分の考えをしっかりと持っていて、憧れがいっぱい。そしてものすごくフレンドリーでした。

Q.日独交流で学んだことは?
A.「言葉に壁があろうとも、人と人との間に壁はなし!」
たとえ母国語が違っていても思いを伝えようとする気持ち、相手の話を理解しようとする気持ちがあれば思いが伝わるということ。そして人を思いやる気持ちの大切さを改めて感じました。

Q.帰国後、どのようなことが役に立った?
A.「人に自分の思いを伝えるための工夫」
相手に自分の気持ちを伝える際に、言葉や表情、ジェスチャーといった様々な方法を織り交ぜながら話し、相手に理解してもらえるよう工夫することができました。また、聞き手の立場で物事を考え、人前に出て話をする際にも気配りできるようになりました。

Q.北海道スポーツ少年団の子どもたちに一言!
A.人との出会いは一生の宝物です。国籍に関係なくたくさんの人に出会い、たくさんの人といういろいろなお話をしてください。勉強も大事ですが、教科書から学ぶことよりも人から学ぶことの方が無限大にあると思います。少年団活動を通じて、普段の生活では学べないことをたくさん経験し、これからの活動に活かしていきましょう。



各種案内



平成23年度北海道スポーツ少年団登録状況

平成23年度の登録数が確定いたしました。平成23年度より新たに奥尻町の加盟により、市町村数が1増加となりましたが、団数・団員数・指導者数はそれぞれ減少しました。

年度	市町村数	団数	団員数	指導者数	
				単位団	役員員
22年度	173	2,257	48,793	9,246	813
23年度	174	2,216	47,365	9,188	785
増減	1	△41	△1,428	△58	△28

平成24年3月31日現在

日本スポーツ少年団顕彰

日本スポーツ少年団顕彰規定に基づき、10年以上にわたりスポーツ少年団の発展に貢献し、特に顕著な功績のある市区町村スポーツ少年団と、10年以上にわたりスポーツ少年団の指導・育成に貢献し、顕著な功績のある登録指導者または、退任指導者に対し表彰されるものです。

平成23年度は右記の8名が受賞されました。

氏名	所属
金内 晴夫	江別市スポーツ少年団
上山 馨	少林寺拳法伊達スポーツ少年団
大河原 洋	伊達スイミングスポーツ少年団
高橋 忠	北心館剣道スポーツ少年団
角田 幸男	旭川スピードスケートスポーツ少年団
吉村 勇一	苫小牧スピードスケート連合スポーツ少年団
張間 敏一	利尻町スポーツ少年団
吉田 耕作	第一空手スポーツ少年団

北海道スポーツ少年団表彰

みなさんの少年団に長年に渡り指導してくれている先生やコーチはいませんか? または、大会で入賞するなど顕著な功績を残したり、地域の中で奉仕活動している単位団はありますか?

そんな指導者や単位団に対して、私たち北海道スポーツ少年団は表彰を行っています。「北海道スポーツ少年団の登録が10年を経過している指導者(有資格者)や単位団」であれば表彰の対象になりますので、心当たりのある指導者や単位団がありましたら、自薦・他薦に関わらずお住まいの市町村スポーツ少年団事務局までご連絡をお願いします。【推薦書提出期限:平成24年7月31日(火)】



事務局紹介

●公益財団法人北海道体育協会
北海道スポーツ少年団 (TEL: 011-820-1706)
(平成24年4月1日より北海道体育協会は、公益財団法人に認可されました。)
課長: 吉田 丘
課員: 小松 洋介、石本 光、土谷 瑠依子、中村 彩香

●北海道スポーツ少年団 広報普及部会
部会長: 秋野 優
部会員: 藤田 伸一、小林 則幸、中尾 猛、神 洋平、森野 志保、五十嵐 七重、斎藤 文男

●あなたのお住まいの管内スポーツ少年団連絡協議会の連絡先

- 石狩管内スポーツ少年団連絡協議会(江別市) — (011) 384-5001
- 渡島管内スポーツ少年団協議会(知内町) — (01392) 5-6856
- 檜山管内スポーツ少年団連絡協議会(江差町) — (0139) 52-1047
- 後志スポーツ少年団本部(泊村) — (0135) 75-2311
- 空知管内スポーツ少年団連絡協議会(深川市) — (0164) 22-1144
- 上川管内スポーツ少年団連絡協議会(旭川市) — (0166) 51-4545
- 留萌管内スポーツ少年団連絡協議会(増毛町) — (0164) 53-1111 (226)
- 宗谷管内スポーツ少年団連絡協議会(稚内市) — (0162) 28-1111
- 網走管内スポーツ少年団協議会(北見市) — (0157) 23-3131
- 胆振管内スポーツ少年団協議会(室蘭市) — (0143) 44-7521
- 日高管内スポーツ少年団協議会(日高町) — (01457) 6-3858
- 十勝スポーツ少年団本部(帯広市) — (0155) 22-8090
- 釧路管内スポーツ少年団連絡協議会(釧路市) — (0154) 31-2600
- 根室管内スポーツ少年団協議会(中標津町) — (0153) 72-2316
- 札幌市スポーツ少年団(札幌市) — (011) 511-7787



セイコーマートは北海道スポーツ少年団の皆さんを応援します。

北海道スポーツ少年団は株式会社セイコーマート様から支援をいただいております。各単位団に1部配布していたこの広報誌を、道内の団員全員に配布する経費(60,000部)や、北海道スポーツ少年団大会の参加者の食事などをご提供いただいております。

